



PROFILE わたる
我如古 亘 (30)

浦添市城間出身スケーター
座右の銘: 今を楽しむ
好きなトリック: トレフリップ
技を決めた瞬間一番足にはまる感じが好き。
今一番行きたいスポットはスペイン。まち全体が
スケボーパークみたいになっていて滑ってみたい



QRコードから我如古さんのInstagramへアクセスすると
スケボー写真や動画を見ることができます。



ROAD

輝く人たち No.27

スケボーに出会ったから 今の自分がある



「整備されたコースを滑るよりも街中を自由に滑り回ることが何よりも楽しい」

そう話すのはスケートボードをこよなく愛するうちなースケーター我如古亘さん(30)。

我如古さんがスケボーを始めたのは高校一年生の時。それまでは、小学3年生から始めたサッカーに熱中していました。県内のクラブチームに所属し、その実力は県選抜となるほど。プロになることを目標に技術を磨いていた我如古さんでしたが、高校一年生の途中でサッカーを辞めてしまいました。「仲の良い友達と、たまに乗っていたスケボーに魅力を感じていました。私的に当時の沖縄のサッカーのレベルに限界を感じていたということ、九州トレンセンに選抜されなかったことがきっかけでサッカーからスケボーに乗り換えました」と当時を振り返ります。

そうしてスケボーに情熱を注ぐようになった我如古さん。すでに何歩先も進んでいた友達をみて「自分も早くうまくなりたい」その一心で来る日も来る日もスケボーの練習に明け暮れました。市内公園やANAB ALL PARK 浦添(浦添市民球場)前の広場、移動手段もスケボーというように、ありとあらゆる場所での練習が我如古さんの基礎を固めます。徐々に上達し、できる技も増えていく中で、雑誌に取り上げられるなど周りからも目を置かれるようになります。「もっといろいろなスポットで滑りたい」と思うようになった我如古さんは、スケートボードやスノーボード、サーフボード向けのアメリカのファッションブランドである「VOLCOM」に自分を売り込み、19歳の時にスポンサー契約を勝ち取ります。「自分のスケート写真や映像などを撮って送った結果、気に入ってもらえました。基本的に1年ごとの契約更新。ありがたいことに今でもスポンサーとしてサポートしてもらっています」

「と我如古さんは笑顔を見せます。

スポンサーがついた我如古さんはスケートの撮影で全国各地を飛び回り、出場した全国大会では日本3位の成績を収めることも。活躍が目についた結果、『THRASHER Japan』という有名な雑誌の企画で海外に行き、その時撮った写真が表紙と見開きを飾るなど、順風満帆なスケーター人生を歩んでいました。

しかし、我如古さんが26歳の時、スケーター生命に関わるような大けがに見舞われます。右足膝関節前十字靭帯断裂。「トリックを決める際の着地でスリップし、膝が抜けたのが分かりました。手術後、目覚めてカテーテルがつながった自分の足を見て一瞬驚きましたが、それよりもどうやったら早くスケボーに乗れるようになるかを考えた」と我如古さんは言います。

手術翌日から痛みが耐えながら屈伸、「早くスケボーに乗りたい」その一心で壮絶なリハビリに臨んだ結果、約半年で復活を果たします。

「うれしかったですね。スケーターにケガはつきもの。常に恐怖心はありますよ。でもそれ以上に楽しいという気持ちが大いんです。スポンサーがついたことで、いろいろなところに行けて、いろいろな人と出会える。出会った人が外国人だったとしてもスケボーがコミュニケーションツールになる。こんな楽しいことはない。『今を楽しむ』ということが僕の信念。そう思えるのはスケボーに出会えたらからなんです」と我如古さんは目を輝かせます。

「いくつになってもスケボーに乗っていたい。スケボーで居酒屋へ行くような60歳になりたい」。そう話す我如古さんの姿はどこまでもスケボー愛に溢れています。そんな我如古さんは、今日もまたスケボーに乗り、力強く地面をブッシュし今という瞬間を楽しみます。